

平成29年度

川崎市自動車運送事業会計決算の概況について

交 通 局

1 平成29年度自動車運送事業会計決算概況

(総括事項)

市バス事業は、市民の大切な公共交通機関として重要な役割を果たしており、安全を第一の使命としつつ、お客様に満足いただける利用しやすいサービスの提供を行うとともに、持続可能な経営に努めております。

平成29年度の経営状況について、収入としては、人口増などを背景とした輸送需要の変化や、ダイヤ改正・路線の新設等、市バスネットワークの維持充実を図ったことなどにより、乗車人員が増加し、乗車料収入全体として前年度を上回りました。支出としては、人件費が減少したものの、営業所管理委託の拡大により委託料が、また、軽油価格の上昇により燃料費がそれぞれ増加したことから支出額全体として前年度を上回りました。収益的収支としては、前年度に引き続き黒字決算を確保しました。

今後も輸送の安全性を着実に確保するとともに、お客様サービスの向上と経営基盤の充実強化に取り組んでまいります。

(1) 営業状況

(運輸成績)

事業の根幹である乗車料収入は、乗合乗車料収入と貸切乗車料収入を合わせ 80億420万5,332円で、前年度と比較して1億8,025万6,421円の増、乗車人員は5,012万3,021人で前年度と比較して115万7,398人の増となりました。

(安全な輸送サービスの確保)

お客様に安全・安心な輸送サービスを確実に提供するため、新たに運転手実技研修を試行するとともに、運転手グループ制の活用、事故防止研修の実施、経路誤り発生箇所をまとめたハザードマップの作成及び全営業所におけるデジタルサイネージによる掲出など、運行管理体制の充実・強化に取り組みました。また、事故の発生を未然に防ぐための取組として、学校における交通安全教室の開催や、自転車駐輪場への自転車接触事故に対する注意看板の設置をしました。さらに、公益社団法人日本バス協会の「貸切バス事業者安全性評価認定制度」において、安全性に対する取組状況が優良な貸切バス事業者として、一ツ星の評価認定を獲得するなど、運輸安全マネジメントを着実に推進しました。

(安心・快適なサービスの充実)

北部地域の輸送需要に対応するため、向ヶ丘遊園駅とたまプラーザ駅を結ぶ路線の本格運行を開始しました。また、利便性向上を図るため、「溝口駅南口～新百合丘駅前」系統の新設、「溝口駅南口～鷺ヶ峰営業所前」間において土曜日の深夜バスの運行を開始したほか、小田急線のダイヤ改正に合わせて始発時刻の繰り上

げ等を行いました。

バス停留所施設の改善としては、上屋 3 基、照明付バス停留所標識 16 基、二面式バス停留所標識 23 基、停留所ベンチ 47 脚の整備を行うとともに、GPS と連動したタブレット型停留所運行情報表示器を 13 台購入し、既設のものを含めて多言語（英語）対応を完了するなど、市バスの運行情報を提供する「市バスナビ」サービスの充実を図りました。

（経営基盤の充実・強化）

上平間営業所及び井田営業所については平成 28 年度に引き続き管理委託による運行を行いました。また、老朽化が著しい上平間営業所については、事務所棟の建て替えに着手しました。

また、事業基盤を支える人材について、正規職員の退職動向を踏まえた計画的な採用を実施するとともに、公募非常勤嘱託運転手については、配属を希望する営業所での採用選考を実施するなど積極的な人材の確保を図るとともに、運転技能コンクールの開催、模範となる職員への市長表彰等の実施、職員表彰受賞歴のバス車内名刺への掲出など人材の育成を推進しました。

この他、市バス全路線において、お客様の利用実態や運行状況などを把握する乗客流動実態調査を行いました。

（社会的要請等に対応した事業の推進）

バス車両の購入（5 両）に当たっては、バリアフリーに配慮し、バリアフリー法に適合した低床バスの導入率 100% を維持するとともに、環境に配慮し、より環境負荷の少ないハイブリッドバス（2 両）を増車しました。

また、地域や利用者に親しまれる取組として、市バスキャラクター「ノルフィン」と「ハローキティ」とのコラボレーションによる事業展開を行い、ラッピングバスの運行等を行いました。また、オリジナルグッズの通信販売、LINE スタンプの販売を新たに実施するとともに、前年度に引き続き市内小学校の児童による絵画作品及び区役所で主催する絵画コンクール作品を掲出したギャラリーバスの運行、市バス♥安全・安心フェスタの開催、ハロウィン装飾バスの展示、クリスマスイルミネーションバスの期間限定での運行等を行いました。

（2）経営成績

収益的収支は、事業収益 99 億 5,196 万 9,726 円に対して、事業費用は 96 億 8,439 万 126 円で収支差引は 2 億 6,757 万 9,600 円の黒字となり、消費税等を除いた収支差引では、2 億 4,115 万 938 円の純利益となりました。この結果、平成 29 年度未処理欠損金は 20 億 5,254 万 9,293 円となりました。

また、財源収支は 2 億 2,495 万 9,826 円の資金不足となりました。

2 平成29年度自動車運送事業会計決算（総括表）

（単位：円、％）

(1) 予算執行状況(税込)

ア 収入

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益的収入	9,972,219,000	9,951,969,726	△ 20,249,274	99.8
2 資本的収入	913,474,000	314,682,451	△ 598,791,549	34.4
合計	10,885,693,000	10,266,652,177	△ 619,040,823	94.3

イ 支出

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益的支出	10,105,769,000	9,684,390,126	△ 421,378,874	95.8
2 資本的支出	1,178,178,600	568,309,114	△ 609,869,486	48.2
合計	11,283,947,600	10,252,699,240	△ 1,031,248,360	90.9

(2) 総合収支

区分	収入	支出	収支差引
総合収支	10,266,652,177	10,252,699,240	13,952,937

(3) 財源収支

項目	金額	内訳
①総合収支差引額	13,952,937	
②当年度分損益勘定留保資金等	△ 265,730,714	減価償却費 274,505,858 固定資産除却損 6,554,171 引当金 △ 507,934,036 長期前受金戻入 △ 36,609,839 翌年度払いのファイナンスリース債務 △ 2,246,868
合計 ③ = ① + ②	△ 251,777,777	当年度財源余剰(△不足)額

(4) 累積財源過不足額

前年度末財源余剰(△不足)額	④	26,817,951
当年度財源余剰(△不足)額	③	△ 251,777,777
当年度末財源余剰(△不足)額	④ + ③	△ 224,959,826

(5) 経営成績(税抜)

科目(費用)	金額	科目(収益)	金額
営業費用	9,111,714,667	営業収益	8,111,010,881
営業外費用	73,477,940	営業外収益	1,314,725,626
特別損失	0	特別利益	607,038
総費用	9,185,192,607	総収益	9,426,343,545
当年度純利益	241,150,938	当年度純損失	—
前年度繰越利益剰余金	—	前年度繰越欠損金	2,293,700,231
当年度未処分利益剰余金	—	当年度未処理欠損金	2,052,549,293

3 業務量

(1)乗合自動車事業

区 分	平成29年度		平成28年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
期末営業キロ	195.42 km	-	194.40 km	-	1.02 km	-
営業日数	365日	-	365日	-	0日	-
期末在籍車両数	341両	-	339両	-	2両	-
延実働車両数	106,666両	292両	105,563両	289両	1,103両	3両
実車走行キロ	13,019,199 km	35,669 km	12,983,946 km	35,572 km	35,253 km	97 km
乗車人員	49,740,307人	136,275人	48,735,911人	133,523人	1,004,396人	2,752人
増減率					2.1%	2.1%
定期	12,872,922人	35,268人	12,444,976人	34,096人	427,946人	1,172人
うち特別乗車証分	2,782,854人	7,624人	2,814,878人	7,712人	△ 32,024人	△ 88人
定期外	36,867,385人	101,007人	36,290,935人	99,427人	576,450人	1,580人
うち高齢者外出支援乗車事業分	5,420,971人	14,852人	5,292,422人	14,500人	128,549人	352人
うち障害者外出支援乗車事業分	2,498,732人	6,846人	2,421,381人	6,634人	77,351人	212人
乗車料収入(税抜)	7,946,652,646円	21,771,651円	7,789,487,073円	21,341,060円	157,165,573円	430,591円
増減率					2.0%	2.0%
定期	1,659,595,002円	4,546,836円	1,606,046,014円	4,400,126円	53,548,988円	146,710円
うち特別乗車証分	405,247,580円	1,110,267円	409,906,000円	1,123,030円	△ 4,658,420円	△ 12,763円
定期外	6,287,057,644円	17,224,815円	6,183,441,059円	16,940,934円	103,616,585円	283,881円
うち高齢者外出支援乗車事業分	1,086,480,947円	2,976,660円	1,060,767,952円	2,906,214円	25,712,995円	70,446円
うち障害者外出支援乗車事業分	282,739,059円	774,628円	272,662,723円	747,021円	10,076,336円	27,607円

(2)貸切自動車事業

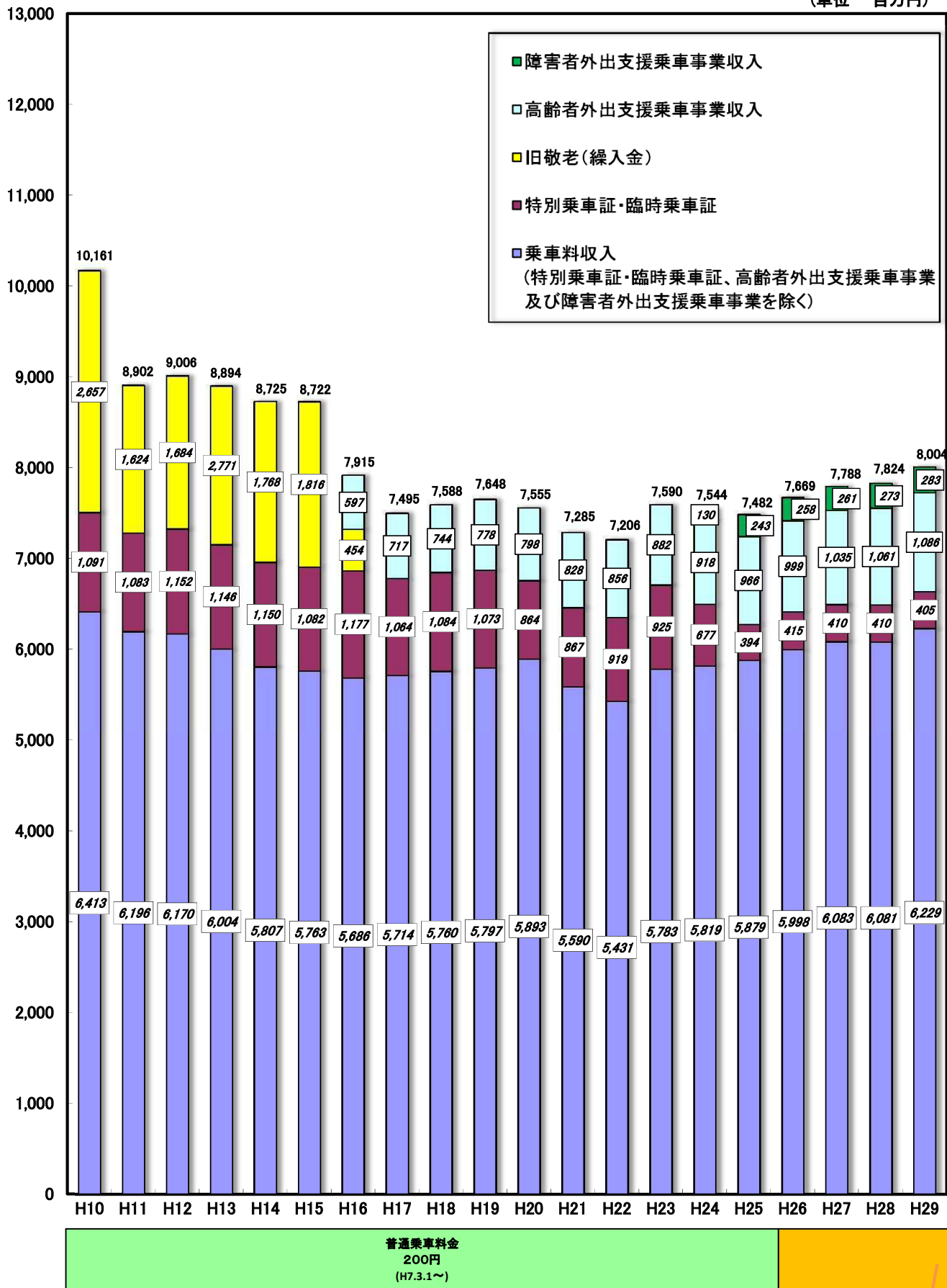
区 分	平成29年度		平成28年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
営業日数	365日	-	365日	-	0日	-
期末在籍車両数	5両	-	5両	-	0両	-
延実働車両数	922両	3両	593両	1両	329両	2両
実車走行キロ	56,669 km	155 km	32,941 km	76 km	23,728 km	79 km
乗車人員	382,714人	1,049人	229,712人	625人	153,002人	424人
増減率					66.6%	67.8%
乗車料収入(税抜)	57,552,686円	157,679円	34,461,838円	94,416円	23,090,848円	63,263円
増減率					67.0%	67.0%

※ 再掲(単位:人、円)

	平成29年度	平成28年度	比較増△減	増減率
乗車人員計(乗合+貸切)	50,123,021	48,965,623	1,157,398	(2.4%)
乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	39,420,464	38,436,942	983,522	(2.6%)
特別乗車証分	2,782,854	2,814,878	△ 32,024	(△ 1.1%)
高齢者外出支援乗車事業分	5,420,971	5,292,422	128,549	(2.4%)
障害者外出支援乗車事業分	2,498,732	2,421,381	77,351	(3.2%)
乗車料収入計(乗合+貸切)	8,004,205,332	7,823,948,911	180,256,421	(2.3%)
乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	6,229,737,746	6,080,612,236	149,125,510	(2.5%)
特別乗車証分	405,247,580	409,906,000	△ 4,658,420	(△ 1.1%)
高齢者外出支援乗車事業分	1,086,480,947	1,060,767,952	25,712,995	(2.4%)
障害者外出支援乗車事業分	282,739,059	272,662,723	10,076,336	(3.7%)

4 乗車料収入等（税抜）の推移

(単位 百万円)



普通乗車料金
200円
(H7.3.1~)

普通乗車料金
210円(現金)
206円(IC)

5 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における資金不足比率の状況

会 計 名	資金不足比率	経営健全化基準
自動車運送事業会計	2.7%	20.0%

※資金不足比率は現段階での速報値であり、今後、監査委員の審査を経た上で議会に報告し確定します。